

街家町家

それぞれの世代のアドミレーション・・・憧れ・・・



濃い茶に着色したバインの床材や羽目板張りの天井、柱障土クロス、格子の組み合わせで京町家を再現したLDK。客間は居間から路地を挟んだ壁にある

街家町家のコンセプト

普通は、街の中に住まいをつくる。
ここでは、街の中の住まいの中に街をつくる。

この住まいは、両親 + 長女と長女の子 、長男夫婦 が暮らす、完全分離型2.5世帯住宅。それぞれの世代が、それぞれのアドミレーション (憧れ) を主張する。

各世帯の想いを様々な相乗させながら全体を形造っていき、現代の世相を反映すべく、多元的同時性の空間を追究してみた。

私達は、発想の逆転をし、住まいの中に小さな路地を造り、住まいの中に街を創る手法で、アドミレーションを繋ぎ合わせた。その延長線上に、長男世帯のアドミレーション「京町家」エリアでは、住まいの中に、うなぎの路地を造り、京都の町家めぐりを実現させた。

それぞれの世代のアドミレーション・・・憧れ・・・

両親の憧れ

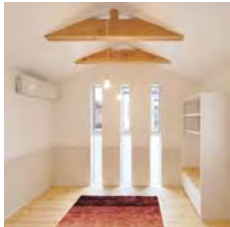
昔、流行った間取りに暮らした。何処へ行くにも廊下があり、何処に行くにも扉が付いている。こんなに小さな家なのに。



廊下のない暮らしに憧れた親世帯。玄關から直結DKへアクセスできる間取りとした。水回りや寝室へもダイレクトにアクセスできる。寝室は、リビングとの1箇の開口を開放することで、日中は和室となる。廊下は排除することとした。

長女世帯の憧れ

ナチュラルでもなく、和でもない。わたしは、可愛い家がいい。



可愛い空間から見たスリット窓は、外部からは町家の虫籠窓(むしこまど)となる

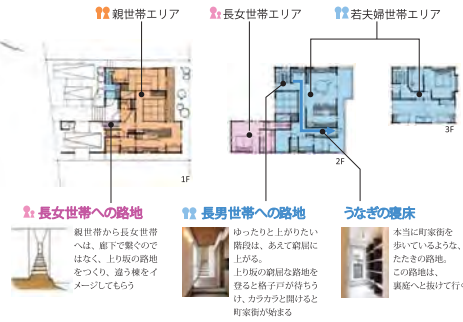
若夫婦世帯の憧れ

京都の町家に暮らしたい。色の濃い格子があり、色の濃い床板がある。ビカビカではなく、時が経てば色合いの空間で暮らしたい。そして、町家のなかを歩くように。



発想の逆転

街に暮らすのではなく、住まいの中に路地をつくり、街をつくらばよい。そう、うなぎの寝床(細いうなぎのような路地)をあえてつくりだすのである。街は平面でなくとも良い、立体的にゾーニングすれば成り立つ。



親世帯エリア
親世帯から長女世帯へは、廊下で繋ぐのではなく、上り坂の路地をつくり、違う様子をイメージしてもらう

長女世帯への路地
ゆったりと上がりたい階段は、あえて斜めに仕上げる。上り坂の路地を登ると格子戸が持ち上がり、カラカラと開けると町家面が始まる

若夫婦世帯エリア
うなぎの寝床
本当に町家街を歩いているような、たたき心地の路地。この路地は、美観へと抜けて行く

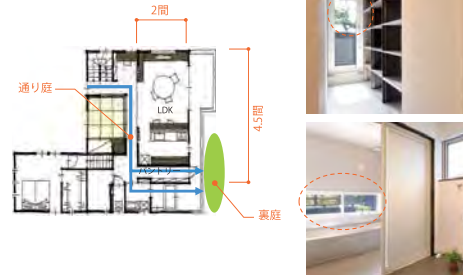
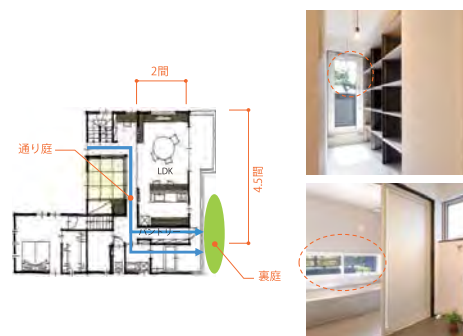
現実との戦いとタイムスリップ

現代では、バリアフリーが当たり前となり、基本的に住まいの中から段差が消えていった。そして、様々な建材・材料は、メンテナンスフリーが主流となっている。本当の町家を覗いてみよう。人々は草履で細い路地や土間を歩き、草履を履いて段差のある家へ「よいしょっ」とあがる。路地は凸凹の道。土間はヒビ割れが風情を物語る。



町家の手法と裏庭

絵画から見る近世初期までの京町家は、開口2間～3間、奥行4間程度のもが多いと推測された。よって、生活の中核部分、LDK+ハンダーは開口2間×奥行4.5間とし、町家の原点を再現した。また、町家の多くには裏庭が存在する。玄関から裏庭までの土間の部分は通り庭と呼ばれ、風や光の通り道として重要な役割を果たしていた。



音へのchallenge

～音と風呂場～
多世帯が心地よく住み住んで、問題となるのが音。居室や路地などは、防音用のALC版を28mmの構造用合板の上に貼ることにより、大人の足音等の特に重量衝撃音・生活音等は、基本的にシャットアウトされる。(断面図参照)
私達が向ったのは風呂場。
街家町家では、2FのUBの下は、親世帯のDKとなる。簡単に納めるには、ALC版の上にユニットバスを載せれば良い。
脱衣室からまていでUBに入れば良いだけである。しかし、ALC版の上にUBを置く、UBのFLが脱衣室のFLより高くなってしまふ。町家時代(昔)の風呂場は、必ずと言っていいほど風呂場のFLが下がっていた。最低限、UBのFLと脱衣室のFLはフラットにしないといけない。考案の結果、断面図のような組合せを選択した。ロックワール(吸音材)と構造用合板・シーリングボード・遮音パネル。3種類の性能の異なるボードを組み合わせ、UBの下に防音室を造った。結果、シャワーの音、UBの床を歩く重量衝撃音等、入浴中の音はシャットアウトされた。

